

YOUTH MANNA



人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい。(マタイ20:28)

2026/3/16(月)

ローマ 2:17-29

●ユダヤ人は自分のことをどう認識しているだろう(17-19)。現実はどうだったかな?(21-23)

●イエス様は、ユダヤ人のことをどう見てくださるでしょうか。マタイ15:14を読んでみよう。

●「あなたがたのゆえに、神の御名は異邦人の間で汚されている(24)」これが、パウロがユダヤ人キリスト者に指摘した問題であった。

★「神の御名を汚す歩み」とは何だろう。どうすればそこから遠ざかることができるか、考えてみよう。

2026/3/17(火)

ローマ 3:1-8

●前の章でパウロはユダヤ人たちが抱えている優越感を打ち砕いた。しかし、ユダヤ人に特別に与えられているものは確かにある。2節で、それは何と書いてあるかな?

●ユダヤ人に最初に神のことばが与えられ、彼らがそのことばを守り、共に歩んだことの責任の重さや意味を考えてみよう。

●ユダヤ人たちは必ずしもみことばに立ちして従順であった訳では無かったけれど、彼らが神様の真実を無にすることはないとパウロは書いているね。いつも神様の真実に目を向けて歩めるように祈ろう!

2026/3/18(水)

ローマ 3:9-20

●私たちにすぐれているところは全くないとパウロは書いているね。曾於の意味は何だろうか?

●10-18節を読んで、自分の内にある罪について思い巡らしてみよう。

●神を求めず自分自身のことばかり求めてしまうことや、自分の方から神様に背を向けて離れていこうとすることはあるだろうか。悔い改めとは心の方向転換を意味している。心を神様に向けることができるように祈ろう!

2026/3/19(木)

ローマ 3:21-31

●何を通して義と認められるかな? 24節

●何によって義と認められるかな? 28節

昨日の箇所でパウロは、律法に忠実になるようにするほど、自分が罪人だとわかるようになっていたよね。だけど今日の箇所は、イエス様を信じる事が罪からの救いの道だと示しているんだ。神様は私たちのことをとても愛しているよ。愛しているから無関心でいられないし、罪を怒らさずにはいられないんだ。神様は私たちに忍耐強く罪を示して、その救いとしてイエス様をささげてくださいましたよ。ヨハネの手紙第一の4章10、11節を読んで祈ろう!

2026/3/20(金)

ローマ 4:1-12

信仰の父アブラハムを例に出しながら、クリスチャンになるのに必要なのが「行いが先」か「信仰が先」かという話をしているよ。

●アブラハムの信仰について聖書はなんと書いているかな? 3vに書いてるよ。

●割礼は信じた証しのようなもので、現代の洗礼に意味が近い。実際の行為(行い)だ。アブラハムが義と認められた(クリスチャンとされた)のは割礼の前と後、とちだったかな? 10v

●信仰が大事で行いは大事ではないという話じゃない。11vには割礼(行い)は信仰の証しだと書いてあるしね。アブラハムは神には不可能がないことを信じた。きみが信じている神様はどんな神様かな?自分が信じているものが何か考えよう。

2026/3/21(土)

ローマ 4:13-25

アブラハムは信仰による義によって世界の相続人となる約束が神様からされた今日の箇所にかいてあるね。そして信仰によって義と認められたのはアブラハム本人だけでなく、私たちのためでもあったことが今日の箇所から分かる。何かができるから、よいことをするからではなく、ただ唯一の神様とイエス様の十字架の救いを信じることで私たちは義(正しいもの)とされるだけでなく永遠のいのちも約束されたんだ。

それをさらに次の人へ受け継ぐ相続人として、私たちはこの世界に心を向けて、救いのために祈ることが励まされているよ。

この大きな世界のために、小さな祈りの一歩を今日始めよう!

2026/3/22(日)

ローマ 5:1-11

●君と神様との関係について考えてみよう。1節によれば、イエス様の十字架によって罪赦された私たちは、今神様との平和を持っている。そのことをどう感じているかな?

●6節には、神様の愛が心に注がれているのは、聖霊によることだと書いてあるね。聖霊は、イエス様を信じる人の内に今もいてくださっているよ。そのことを信じて受け取るよ!

●8節を読んで、神様の愛をどのように感じるだろうか。今聖霊を心に迎えて、ただ神様が語ってくださっていることに耳を傾けよう。